

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果に関する教育長コメント

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、全ての教科において、全国の平均正答率を下回るという厳しい結果が続いており、私としては、依然として三重の子どもたちの持つ力を十分に引き出すことができていない状況を重く受け止めています。

このような厳しい状況の中ではありますが、「小学校国語B」や「中学校数学A」を中心に、ほぼ全ての教科において、全国の平均正答率との差は昨年度と比べて大きく縮まっているという結果を見ると、全国の中でも学力が伸長しています。

このことは、県・市町教育委員会、学校、さらには、保護者、県民の皆様が連携し、それぞれの役割を果たすべく取り組んできたことや、各小中学校において、校長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、授業改善や個に応じた指導を行ってきたことの結果であると考えます。

県教育委員会としては、昨年度から進めているワークシートや「みえスタディ・チェック」などを現場の声も踏まえ、より有効なものとなるよう改善し、提供するとともに、国の調査官等を招聘した研修会の開催など、各小中学校における授業改善や指導力向上の取組を支援するため、あらゆる手立てを講じ、不断の取組を進めてまいります。

今後とも、県・市町教育委員会や全ての学校の校長、教職員が「子どもたちの確かな学力の育成は、公教育としての学校が果たすべき根幹的な役割である」という責任を常に肝に銘じ、今回の結果を糧として、これまでの取組の方向性について再度確認し、取組のさらなる徹底を図ってまいります。今こそ一丸となって、組織的・継続的な取組を全力で進めてまいりますので、家庭や地域の皆様方の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

平成27年8月25日 三重県教育委員会 教育長 山口 千代己